

No. 311

全 仏

9/60



ハワイ日蓮宗別院

日蓮宗のハワイ別院は、大正元年に開創され、昭和32年にはスクール街より現在地パリハイウェイに移転された。一昨年、信徒会館が完成し、布教・文化活動の一層の充実が期待されている。なおハワイ全島には5ヶ寺ある。(写真提供・日蓮宗新聞社)

首相へ反対声明文

靖国参拝問題で提出

毎年八月になると、首相並びに閣僚の靖国神社参拝問題が国民的な話題になる。争点は、その参拝が私的なものであるか公的なものであるかというところに、常にかかわってくるが、今年は例年とくらべると、少し事情が違っていた。

政府は、公式参拝について、去年七月に官房長官の私的諮問機関として「閣僚の靖国神社参拝問題に関する懇談会」(靖国懇)を発足させ、この靖国懇において首相・閣僚の公式参拝が憲法の「政教分離の原則」、「信教の自由」、「国務大臣の憲法擁護義務」の三点に抵触しない方法を探らせたのである。この結果、通常の神社参拝の儀式を省き、社会通念を充分に

考慮すれば違憲には当たらないという一つの結論を得、これによって今年も、政府が公式参拝を行ったのである。

これに対しては様々な分野からの反発があったが、全仏でもこれまでに四回、正式に靖国神社公式参拝について反対声明を出してきた経緯をふまえ、八月十二日付で別記のごとく「反対声明文」を中曽根首相へ提出した。この問題は、単に公式参拝をなくしにしようとする靖国問題を既成事実のうちに解決してしまおうとする政府の意図にとどまらず、防衛費の1%枠をとりはずす問題にも密接に関連し、強いては憲法改正にも波及しかねない重大な要素を含んでいる。我々は仏教徒と

して、靖国神社問題にはこれまで以上に強い関心を示す時機にさしかかっているのではなからうか。

第三回全仏改革委

第三回「本会の目的・事業・構成等を改革するための委員会」は、去る七月二十五日午後一時から、東京グランドホテルで長時間にわたる審議を行った。まず、辞任した細川祐葆師に代って伊東盛熙師(曹洞宗)が委員長に選出され、また、本会の構成、負担金、役員等について各委員から意見が述べられた。

ルンビニー総務部会

第十五回ルンビニー総務部会は、去る七月二十六日午後二時から、明照会館会議室で開催、辞任の桑原眉尊師に代り、部会長に小田原利仁師(曹洞宗)が選出されたのち、堂等建立などについての検討が行われた。

反対声明文

首相及び閣僚の靖国神社公式参拝に対する反対声明

本会は、過去四回に亘り、靖国神社法案並びに首相及び閣僚の靖国神社公式参拝に対し、「信教の自由」、「政教分離の原則」、「国務大臣の憲法擁護義務」に拠り、反対の意志表明を行いました。

本年八月九日、内閣官房長官の私的諮問機関である「閣僚の靖国神社参拝問題に関する懇談会」は、官房長官に答申書を提出し、そこでは首相及び閣僚の靖国神社公式参拝を合憲とする見解を大きく打ち出しております。

而して、この見解に基づき、首相及び閣僚は政教分離の原則に抵触しない何らかの方法により、来る八月十五日に靖国神社に公式参拝を意図しているようですが、このことは憲法の精神を解釈によって歪曲するものであり、極

めて遺憾であります。

就きましては、首相及び閣僚がどのような形であれ、靖国神社に公式参拝することなきよう強く要望いたします。

昭和六十年八月十二日

財団法人 全日本仏教会

理事長 阿部慶昭

自由民主党総裁

内閣総理大臣

中曽根康弘殿

残暑御見舞い
申し上げます

曹洞宗宗務所

管 長 丹羽廉芳

宗務総長 桑原眉尊

参 議 田辺哲崖

参 議 岡田巳成

教学部長 檀山大典

財政部長 朝日泰峯

総務部長 小田原利仁

人事部長 伊東盛熙

伝道部長 村井禅祐

出版部長 服部栄隆

教化部長 多羅尾道春

東京都港区芝二一五一二

〒105 〇三(四五四)五四一一

第32回全日本仏教徒会議

テーマ、日程などきまる

来月24日徳島市で

第三十二回全日本仏教徒会議は、来る十月二十四日(木)、徳島県仏教会との共催により、徳島市郷土文化会館にて開催されます。

〈開催要項〉

テーマ 「二十一世紀に向けて人類のしあわせと世界の平和を求めて手をつなごう——全仏教徒はこぞって慈悲の実践活動を進めよう——」

現代の科学技術の粋を集めて完成した東洋一の大鳴門橋、これを記念して第三十二回全日本仏教徒会議徳島大会は徳島県仏教会との共催により徳島市において開催されることになりました。

昔、唐より帰国された弘法大師はその当時の技術をくしし、人の和をもって不可能とされた満濃池の土木工事を完成させました。今、科学技術の発展は不可能とされていた大鳴門橋の完成をもたらしました。

しかしながら何ごとにも科学が先行され、人間本来のいのち、地球上の生命そのものの軽視が感じられる今日、「二十一世紀に向けて人類のしあわせと世界の平

和を求めて手をつなごう」をテーマに相い集い研鑽をしてみたいと思います。

特に今回は檀信徒部会を復活して「慈悲の実践活動」として僧侶、檀信徒と一体となった仏教運動への曙光を求め、生涯教育と寺院活動、人権、平等の運動展開、仏教徒の救済活動についての部会をもち、二十一世紀へ向っての問題提起をしてみたいと思います。

みなさま方の多数のご参加を期待し、その大きな成果を願っております。

〈大会日程〉

9時00分受付▽9時45分開会式▽10時40分基調講演(本多賢純・全日本仏教会前理事長)▽11時30分総会▽12時00分昼食▽13時00分部会▽15時00分総会▽16時00分閉会式

〈部会テーマ〉

第一部会 慈悲の実践活動(檀信徒会)
第二部会 生涯教育と寺院活動
第三部会 人権問題
第四部会 仏教徒の救済活動のあり方について

〈大会役員〉

総裁・藤井實徳、副総裁・勝又信教、梅田信隆、守山良順、村瀬玄妙、木辺宣慈、

林亮海、小西日静、中村元、大会長・大橋寛阿、大会副会長・安立清雄

幹事長・河野亮永、副幹事長・近藤隆敬、若林隆光、金田義章、意見発題審査委員長・

西島義彦、宣言決議文起草委員長・塩入亮達、議事運営委員長・白川謙敬、第一部会長・若林隆光、第二部会長・近藤隆敬、第三部会長・新井智清、第四部会長・田中光成

なお、十月二十一日より二十五日まで、徳島市郷土文化会館にて「現代高僧墨跡展」が大会記念事業として開催されます。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

残暑御見舞い 申し上げます

日蓮宗宗務院

管 長 金子 日 威

宗務総長 長 瀬 貫 公

宗務副総長 加 藤 海 晃

総 合 画 部 長 富 田 義 董

庶 務 部 長 神 部 鍊 紳

財 務 部 長 浅 井 玄 裕

教 務 部 長 日 比 宣 正

護 道 部 長 法 山 本 龍 雄

現代宗教 研究所長 長谷川 正 徳

日蓮宗 新聞社社長 豊 田 英 世

東京都大田区池上一三二一五
〒146 〇三(七五二)七一八一

仏認
第3種郵便物

基本法、第一波中央集會

同対審答申二十周年記念も



第一波中央集會

部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会（会長大谷光真・浄土真宗本願寺派門主）では、七月十八日、東京・九段会館において中央実行委員会並びに第一波中央集會を開催した。

中央集會には、中央実行委加盟団体などから約千三百名の参加があった。最初に木村英一副会長（全国大学同和教育研究協議会会長）から挨拶があり、次いで小森龍邦事務局長（部落解放同盟中央本部書記長）から基本方針が述べられた。中央集會散会后、政府各省において、①八十六年度予算編成にむけて、②八十五年全国部落実態調査の充実、③「同対審」答申二十年を総括し部落解放基本法の必要性、④各省ごとの課題、について代表者が交渉を行った。

これまでの経過をふりかえってみると、まず昭和四十年八月十一日に内閣同和対策審議会の答申が出され、部落問題が人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題である。そして、これを解決するのは国の責任であり、国民すべての課題であると示された。

それにもない、「同対審」答申の完全実施と「特別措置法」の制定を求める国民運動が展開され、ついに昭和四十四年七月十日、十九年の時限立法として、「同和対策事業特別措置法」が制定されたわけである。その後、昭和五十三年十月二十日に同法の三年間延長、昭和五十七年三月三十一日の「地域改善対策特別措置法」（五年間の時限立法）制定という経過をたどったわけである。

この「地対法」の有効期間もあと二年たらずとなり、そこで部落解放基本法制定をめざし国民運動を進展させようというテーマに「同対審」答申二十周年記念集會が八月十九日、東京・日比谷公会堂において開催された。

当日は、小森龍邦氏の「答申の精神と部落解放基本法制定の意義」基調報告、平野一郎・朝日カルチャーセンター社長による「同対審答申と日本の民主主義の課題」という記念講演が行われた。

文京・清林寺展と講演の夕べ

- 期 間 昭和60年10月12日(土)～10月17日(木) 毎日AM10:30～PM 7:30
- 会 場 有楽町・交通会館3階（国電有楽町駅東口前）
- 入場料 700円（6日間共通にて使用できます）

講演日程（毎日PM 6:30より開演 ※但、最終日17日はPM 4:00開演）

12日(土)	南無の会会長	松原泰道 師
	— 声明と雅楽の夕べ —	
13日(日)	清林寺住職	難波光定 師
14日(月)	東洋大学教授	恩田 彰先生
15日(火)	清林寺三重塔設計	堀内仁之先生
16日(水)	仏	師 明珍昭二先生
17日(木)	曹洞宗布教師	吉田雄鳳 師

◆ 出 品 ◆

阿弥陀如来像（室町時代作）・聖観世音菩薩像（江戸時代作）・中尊寺型らでん入須弥檀三基・格天井絵（四季折々の花）60点 名僧墨蹟多数—他約120品目展示。

仏教に触れていただく催しです。どなたでもご自由にご参加下さい。

主催：浄土宗・清林寺 東京都文京区向丘2-35-3 TEL 03-821-2581

宗教と税制シンポジウム

第2回 300名が参加して開く

日本宗教連盟（理事長・阿部慶昭全理事長）主催の第二回「宗教と税制シンポジウム」は、六月二十七日午後一時より、増上寺地下ホールにおいて約三百名が参加して開催された。

このシンポジウムの目的は、近年とみに宗教界で問題となっている税金の問題に関して宗教界が自らの姿勢として自律自浄の精神を発揮して対処していこうとするものである。本年度のテーマは「源泉徴集について」であったが、これは宗教法人に対する税務当局の立ち入りが、この点をいわば入口として全体に及ぶという現状から選択されたのである。

開会にあたり、まず川島事務局長が開催趣旨説明、阿部理事長が挨拶をした。次いで、来賓の加藤六月・自民党税制調査会会長、田名部匡省・自民党全国組織委員会文教局長が挨拶し、来賓各位の紹介をした。

このシンポジウムは、パネルディスカッション形式で行われたが、発題と司会を昨年に引きつづき、石村耕治・帝京大学講師が行い、発題者として本年は新た

に西尾祐男・西尾会計事務所長（税理士）が加わった。パネラーは加盟団体より各一名が参加し、本会からは長谷川正浩・全仏顧問弁護士が出席した。

パネルディスカッションの内容を簡単に要約することは不可能であるが、石村講師の「近時、課税庁が源泉課税にかかわる（税務調査）手続きを通じて、意識的にしろ無意識的にしろ、宗教法人の本来の活動に介入する事例も報告されるようになってきている。」との発言が注目を引いた。つまり、税務当局は「源泉徴取」を手掛りにして宗教法人全体を把握しようとし、そのことは宗教法人側からすれば明らかに政教分離・信仰の自由の原則を侵すものであるという認識である。

当日は、大蔵省からも係官が出席したが、この問題は、特に全仏や神社の関係者にとっては、国税当局と時間をかけて「良き関係」を確立していくことの必要性が痛感されたといえよう。



宗教と税制シンポジウム

生活は、体温。



ゆとり、ふくらまそうね。中期国債ファンド

笑っていますか、大きな声で。持っていますか、口ずさむ歌。いきいきエブリデイ。ぬくもりと、ゆとり。大切な貯蓄も、そんな暮らしのためのものでありたいですね。いかがですか、有利きで便利きで、いま注目の中期国債ファンド。毎月複利でふえつづけ、しかも出し入れが自由。みなさんの資金も、上手に活かすなら、ひとまずは中期国債ファンドへ。夢が、ゆとりが、ふくらみます。弾みます。

預ける貯蓄から、ふやす貯蓄へ。

山一證券

〒104 東京都中央区八重洲2の4の1
☎(03)276-3181(代表)

※中期国債ファンドの設定・運用は、山一投信委託 ※お申込みの際は受益証券説明書をご覧ください。

昨年七月号に報告以後の曹洞宗の具体的取組みについて若干申し述べます。

特記すべきは、昨年八月、アフリカ・ナイロビで開催の第四回世界宗教者平和会議に出席し、前回大会でなされた「町田差別発言」の総括を行い、全世界の人にその誤りを正し陳謝したことであり、その結果、「ナイロビ宣言」等に日本の「部落差別」の問題が記述されるなど、一定の前進が見られたと思われ、自らの認識の足らざるによるとはいえず、この間における、仏教界の方々の理解あるご同行に対しあらためて感謝の意を表します。

次に諸差別事象の改正作業について

一、差別書籍の回収
『禪門曹洞法語全集 坤』他三冊の回収を、あらゆる機会に呼びかけておりますが、残念ながら未だ完全回収に至っておりません。特に『洞上室内切紙参話研究並秘録』は四二%の低回収率で、その原因の究明や、今後の、これに対する啓蒙・啓発等が考慮されなければなりません。

二、差別戒名過去帳並びに墓石の改正
昭和五十七年に実施した第一次調査の結果を踏まえつつ、昨五十九年度より第二次調査を実施中ですが、この一年余にして漸く軌道にのりはじめたというのが実情であります。

この調査は、もとより寺院や檀信徒を啓発し、改正作業の促進または適正な改正がなされているかどうかの点検を含む、進捗状況の把握など、差別事象の解消と

後日のため差別事象の正確かつ詳細な記録の作成を伴うものです。過去帳の改正は、遅速の差はありますが、当該寺院に進めて貰っております。

差別戒名彫琢墓石の改正は、これを早急に進めるべく、所有者である檀信徒に任職が働きかけをするよう指導し、時には地域的な協力体制を頂きつつ、宗門の最重要課題としてとりこんでおります。

なお、今後の問題として、他宗寺院を含む複数寺院檀信徒共有の墓地における改正は、相互の協力が必要不可欠ですが、共同墓地の場合、差別戒名彫琢墓石を所

同和推進のために

—その後の教団と同和問題について—

久保井 恭彦 (全仏前同和委員)

有する各宗共に、共通のテーブルにすることが課題でありましょう。

また、これに並行する差別戒名の追善法要は、両大本山(永平寺・総持寺)の年間行持として、死後も差別された被差別部落の方々の霊前に共々供養の誠を捧げると共に、本山修行僧に人権教育を施し、併せて毎年、人権擁護・反差別の誓いを新たにすることであります。

三、身元調査の拒否

宗門内での聞き取りによりますと、殆どの寺院が問い合せを経験しており、寺院が利用され易いことから、機会あるご

とに啓発し、その徹底を図っております。また、全寺院に対する「過去帳」閲覧禁止の通達、身元調査お断りポスターの配布等も既に実施しております。しかし、この点については、未だ全寺院に徹底方が為されなく、一層の深い取りくみが必要とされます。

四、宗内差別事象の自主点検

曹洞宗宗務庁発行の「曹洞宗行持軌範」「曹洞宗宗制」及び「業・因果論」に関するもの、また寺院で出している「お札」「お守り」類、その他、庁内外の各種出版物の自主点検及びその改正について、

地方における宗務所や教区研修会の企画、実施には、当該宗務所の人権擁護推進員が中心となってこれに当り、宗務庁としては年度方針による研修資料(「禅門小僧訓」「切紙資料」等を使用)の作成をはじめ、曹洞宗ブックレット「差別と人権」シリーズ・「宗教と差別」シリーズ等を配布し、この研修の用に供してあります。

六、その他

人種差別撤廃条約の早期批准を求める等の署名運動には、その都度宗内全寺院・檀信徒に呼び掛け、これを実施しております。

また「部落解放基本法」の制定に向けても同宗連加盟教団として連帯し行動しております。

以上、曹洞宗の人権擁護、部落差別問題に対する具体的取り組みについて述べましたが、その基本的認識としては、立宗の原点である仏祖の慈訓「悉有仏性・人類平等」の教えに立ち帰るため、この問題は決して避けて通り得ない課題であると確信しております。

しかしながら今なおこの問題を他人事としかかえていない人、また「差別は無くならない」と居直っているかのような人も見受けられ残念ながら全宗門的取り組みとなっていないことも事実です。

冒頭に述べた、町田発言の総括は、曹洞宗の人権擁護・反差別取り組みの終点ではなく、正に出発点であると確認しております。

葬儀屋仏教

最近の葬式は、映画「お葬式」に見るように、葬儀屋主導型の葬儀である。例えば故人の徳を讃える「歎徳文」にしても、大導師が、それを読む前に、すでに女性のナレーターによって、わかりやすく亡き人の故事来歴が語られ、僧侶が会場に入ってくる前に、遺族はすでに白いハンカチを目に当てている。

住職×毛帳

大導師が、霊前に進み出て歎徳文を奉読する頃には、すでに遺族の気持は落着いていて、わけのわからぬ、むつかしい漢文調の文章を、白らけた様子で聞いている。

型通りの弔辞が数本あって、式衆退場になる頃に、また、女性のナレーターの声が聞こえて来て、葬儀屋さんが、立派な御挨拶をなさって、無事おさめて幕となる。

三界の大導師たるや、まさに形なしの状態である。

僧職の中には、葬儀屋さんが、司会とナレーターをやってくれるので、歎徳文など書かないで、たすかるといふ御仁もいらつしやる。どうしたことか！戦後、寺院のあり方について「葬式仏教だ」と非難された時、日本仏教史の大家であった圭室諦成先生が「葬式

仏教」という本を書いて「葬式仏教で良いじゃないか」と頑張っていたのだが、もはや「葬式仏教」にも徹しきれず、前線を後退しつつある状態である。

葬送儀礼というものは、かつては厳肅な儀式であつて、鎮魂のための美しい習俗であつた筈である。

「野辺の送り」などの葬列は、悲しくも美しい習俗であり、地方では、昔ながらに行われているであろう。今まで述べたのは、都会の墮落した葬儀の姿であるとも非難されよう。

地区単位の仏教会も、懇親会や税金対策のための講習会ばかりでなく、この際、宗派を超えて、「葬儀屋仏教」についても考えるべきである。

地区単位の齋場を設営するなどして積極的にこの問題に取り組んでいるところもあるようである。

要するに、終始、遺族の身になって考えてくれるのは、葬儀屋さんであつて、新しい知識を得ようと講習会などを開いて、彼等は勉強している。昔ながらに、きれいごとの上にあぐらをか

いているのは、むしろ僧職の方ではないのか。心のこもつた葬送儀礼を主催する心構えが、この際、是非とも必要なのである。

(文化専門委員・望月良晃)

良書紹介

『ことばの花束』

岩波文庫編集部編

岩波文庫の名著名作の中から、心ひかれることば三五句を厳選して編んだアンソロジー。無限の豊さを秘めた古典の宝庫へ分け入る水先案内となる。

(岩波文庫・三〇〇〇円)

『病いの存在論』

得永幸子著

著者は、高校二年のときミチウチ症となり障害者となつて、大学・大学院で社会福祉を学ぶ。そこで福祉は病む者を「対象者」としてしかみていないことを知り、また病いが自己の存在そのものであるという自覚にいたる。それを修士論文としてまとめたものが本書であるが、現代の人間回復の視点を与えるものである。

(地湧社・一六〇〇円)

『医療のための人間学』

土屋健三郎監修

本書は産業医科大学総合人間学カリキュラム小委員会が編集したもので、医療現場や医学教育のために人間を知ることゝをねらいとしているが、第三章の「死の臨床」ではシュワイツァー寺住職古川泰龍師を中心に死のみどりについてとりあげている。

(地湧社・一六〇〇円)

『虜囚歌』

ブラハにおける

強制収容中によむ

北山淳友著・北山宏明編

薄幸にして留学中戦禍のためブラハに客死した孤高の仏教哲学者北山淳友博士が、晩年獄中で詠んだ和歌、詩藻の類四〇〇首余を、実弟宏明師(増上寺財務部長・教念寺住職)がまとめて上梓したものの。ソ連軍によって強制収容され、監獄を転々としながら労務に服した仏教学者の腸を断つ悲痛な叫びが、一読胸を打つ。(北山淳友遺稿出版後援会・一〇〇〇〇円)

『御同朋の社会をめざして——人権擁護関係資料』門信徒会・同朋運動本部編(本願寺出版部・八〇〇〇円)、『仏教がカトリック伝道から学ぶこと』仏教伝道協会実践布教友の会編(仏教伝道協会・一五〇〇円)、『アジアの民芸』NHK取材班編(日本放送出版協会・九〇〇〇円)、『西遊記の秘密』中野美代子著(福武書店・一八〇〇円)、『長い午後』早瀬圭一著(毎日新聞社・九八〇円)、『ホーンブロウ』十二巻・セシル・スコット・フォレスト著(ハヤカワ文庫・各四〇〇円前後)

文化専門委員(順不同・敬称略)

宝田正道、中野東禅、阿純孝、榊原博逸、島田喜久子、福島光信 推薦

第五回同和研修会

九月十二
—十三日

第五回同和研修会は、「仏教徒の行動—自らの部落差別の事実にせまる—」をテーマに、左記の通り開催いたします。尚、今回は、「差別問題と業論について」というパネルディスカッションを行います。

パネラー
小森龍邦 (部落解放同盟中央本部書
記長)
瓜生津隆真 (浄土真宗本願寺派同朋
運動本部本部委員)
久堀弘義 (浄土真宗本願寺派同朋運
動本部専門委員)
児玉暁洋 (真宗大谷派大谷専修学院
指導兼教学研究所所長)
— 順不同・敬称略 —

第18回 日本仏教文化会議

公開シン
ポジウム

第十八回日本仏教文化会議は、左記の通り決まりました。

秋山達子 (駒沢大講師)
花山勝友 (武蔵野女子大
教授)
石上善應 (大正大教授)
峰島旭雄 (早稲田大教授)
武藤義一 (埼玉工科大学長)
— 順不同・敬称略 —

バングラデユッシュ 義援金に御協力を

本年五月にバングラデユッシュで発生した災害に対し、本会でも募金活動を行っております。現地の仏教系孤児院では

衣食住すべてに困窮しておりますので、ぜひとも義援金の御協力をお願いします。義援金は現金書留にて全仏国際部までお送り下さい。

写仏会のお知らせ

来る九月二十八日(土)午後二時から四

時まで、浄土宗東京教区青年会・浄土宗城西組青年会の主催により、青山善光寺にて写仏会が開催されます。講師は石上善應・大正大教授です。お問合せは文化書院へ(〇三—二六一—〇四七九)高橋まで。

局内人事

国際部長 田代弘興 7・26 退任
国際部長 杜多茂夫 異動
組織部長 齋藤明聖 異動
文化部長 川田聖成 新任

訂正

本誌七月号三頁のハワイ大会の記事中、〈寺田義潤師〉を〈寺田義淳師〉に、また、十頁の曹洞宗大本山総持寺の電話番号を〇四五—五八一—六〇二—に各々訂正いたします。

事務局録事

▽七月△

哀 悼

松井日宏師

六月二十九日、九十二歳で遷化。法華宗本門流元管長、大本山本能寺第百二十七世貫首。

平林宥高師 (全仏元副会長)

七月二日、八十三歳で遷化。真言宗豊山派元管長、総本山長谷寺第七十四世化主、真言宗長者、大正大学元理事長。昭和四十四年五月から二年半、全仏副会長

一日 曹洞宗被差別戒名物故者法要
三日 局内会議
四日 都民お盆まつり出席
千葉県仏理事会出席

五日 同和委員会

九日 宗教法人セミナー(岡山)

十日 日韓仏教交流協議会総会出席

十一日 法律相談室

十八日 基本法制定中央集会出席

二十二日 全仏大会幹事会

二十四日 局内会議

二十五日 全仏改革委員会

二十六日 ルンビニー総務部会

▽八月△

五日 平林宥高師本葬参列

七日 日蓮宗宗務総長祝賀会出席

八日 法律相談室

十九日 同対審答申20周年記念大会出席

二十日 局内会議

二十二日 法律相談室

二十七日 ルンビニー総務部会

三十日 日宗連幹事会

につかれた。

太田淳昭師 (全仏元理事長)

八月四日、八十一歳で遷化。浄土真宗本願寺派元総長。昭和三十二年九月から二年間、全仏事務総長。三十四年九月から二年間と四十八年十一月から翌年六月までの二回、全仏理事長を歴任した。

村上慈海師

八月十二日、八十三歳で遷化。臨濟宗相国寺派元宗務総長。同派鹿苑寺(金閣寺)住職。

下二〇五 東京都港区芝公園四—七一—四

発行人 矢 萩 信 顕

発行所

財団法人 全 日 本 仏 教 会

下二〇五 東京都港区芝公園四—七一—四